

**体験会** 初心者向け  
はじめての「森のおさんぽ」「森のようちえん」「プレーパーク」体験会

自然の中でのびのびと、子どもの自主性と五感体験を大切にしたい子育て……まずは一緒に体感!



参加者数  
森のおさんぽ 24組 森のようちえん 21名 プレーパーク 多数

プレーパークでは、プレーリーダーが参加者の遊び心を上手く引き出し、会場が和やかで賑やかな雰囲気を醸し出していたため、午後からの盛り上がりにつながっていきましました。  
森のおさんぽと森のようちえんについては、こんな身近な自然でも遊べるんですね、という感想があった一方、初めての参加者への事前の説明が不足していたため、戸惑いも見られました。もっと「ひっぱる」「うながす」ための声かけが必要だと感じました。また、受け入れ側も、名簿の不備、スタッフの事前下見や打合せの不足などにより、参加者を待たせてしまうなど、対応に課題がありました。参加者の安全をしっかりと確保するうえでも、十分な準備と十分な説明が必要です。

**講演会** りんごの木子どもクラブ主宰、絵本作家  
柴田愛子さん講演会 子育てを楽しもう!

～子どもは自然の環境の中で、心も体も豊かに育ちます。大人も一緒に心身を開放しませんか～



子どもと向き合う柴田愛子さんならではのたくさんのエピソードを交えながらの楽しいお話しは、あっという間に制限時間を過ぎ、20分オーバー。200名を超える聴衆は、共感し、感動し、自分のことを見つめ直す機会となったようです。  
なかでも印象的な言葉の数々を抜粋します。

なぜ、子どもは自分の髪の毛を切ることが許されなくなったか。親が思う可愛らしい子じゃなくなるから。親が子どもをペット化している。子どもは「自分のもの」を自分で使えない状況になっている。

いろいろな教育手法というものがあるけど、「どう育てたいか」、つまり、親が、大人が願うことばかりあることがおかしくて、主役は子どもで、子ども自身はどう育てているのか、と見方を変えてみよう。  
基本的に子どもがやりたいことは保障しようという姿勢で子どもを眺めるようになって、(幼児教育が)面白くなった。

子どもの「好き」「おもしろそう」「やってみよう」という感情、つまり心が動いている、ということはとても大事なこと。心が動いて主体的に学んだことは、子どもの中に蓄積されていく。

子どもに寄り添うとは、理解とか解決とかじゃない。子どもは(大人が)分かってくれると思うと、感情が落ち着いてくる。子どもの内面に寄り添い、子どものやりたいことを受け止めることだ。

子どもは効率悪く、無駄多く育っていくもの。大人は子どもがやりたいことを保障すること。また、子どもは思いを言葉にするのは苦手だが、その表情は饒舌。子どもの表情を見て話しかけていくことが大事。

講演者：柴田愛子さん(りんごの木子どもクラブ代表/保育者/絵本作家)  
時間：13:00-14:20

自然界は子どもの力量にあった、遊びの素材に満ちている。また、子どもも動物なのできちんと危険を判断しながら遊ぶことができる。しかし、自然の中に子どもをおけば育つか、というとそれだけではない。そこに魅力ある大人がいることが必要。子どもにも訳が分かる、とてもシンプルなくらしの中に興味や憧れを持つ。自然体験の時に魅力的な大人がいることが人間化していくためには大事。

**休憩時間** 多治見の自然の中で子どもを育む森のようちえん  
「森のわらべ多治見園」テレビ取材のDVD上映

豊かな自然の中で、大人も子どももつながりあい、育ちあい、生きる力をはぐくむ……。園の取り組み



岐阜県内の森のようちえんの先駆け「森のわらべ多治見園」の浅井智子さんから、TVの取材を受けた際のDVDを紹介してもらいました。  
森のようちえんで大事にしていること、事故があったときの対応(今回はマムシの事例)がまとめられており、これから始めたいという人にわかりやすく、参考になったと思います。

発表者：浅井智子さん(自然育児 森のわらべ多治見園 園長)  
時間：上映15分

**パネルディスカッション** 「子育てを楽しもう!」講演を受けて  
柴田愛子さん×小菅江美さん×萩原ナバ裕作さん

「子どもを通わせているのだが……」「森のようちえんを自分たちでやるには?」。実践者たちに聞いてみよう!

柴田愛子さんをはじめ、実践者でもあり、豊富な経験を持つ森のようちえんてくてく園(新潟)・園長 小菅江美さん、岐阜県立森林文化アカデミー・准教授 萩原ナバ裕作さんを迎えたパネルディスカッションが行われました。  
柴田さんの講演を聞いた聴衆からの質問に答える形で話しを展開しました。



**Q:** プレーパークで娘が同じことしかしないが大丈夫か?(他に楽しいこともあるのに)

**A:** 毎日同じようでも、子どもには微妙に違う。好きなことはトントンやろう!(柴田さん)

**A:** 保護者は成果が見えてこないと思っちゃうからね(ナバさん)

**A:** もしかしらたら他のことで友達とコミュニケーションとる自信がないだけかも。そういう見えない気持ちに寄り添う大人がいてあげてもいいかも(小菅さん)

**Q:** 子どもとのやりとりより、保護者(特に30代~40代)とのやりとりが難しいと思うときがあるが、どう対処しているか?

**A:** 自主保育って正直面倒だね(笑)。けれど、子ども心が無い人はいない。大人が一線を越えられる体験をさせてあげてみては?(柴田さん)

**A:** お母さんたちに「なんだか森って楽しい」とか「森だと大きな声で子どもをしからなくてもいい」と実感してもらおうといい(小菅さん)

**A:** 自主保育の中で、「みんな育てている」って感覚を持つことが大事だね(ナバさん)

**Q:** 森のようちえんを立ち上げたいと思っているが、苦労した点など教えてください。

**A:** 1人でやり始めることは意外と簡単。後についてくる仲間づくりに苦労する。素敵な仲間づくり頑張ってください(小菅さん)

**A:** 子どもを集めるのが大変。宗教ですか? って言われたり(笑)。私でもスタートは2人きり。でもその2人がいたから今がある(柴田さん)

**A:** 「森のだんごむし」も最初は3人。でも、そのころの森のようちえんが一番楽しかったかもしれないなあ(ナバさん)

パネリスト：柴田愛子さん(りんごの木子どもクラブ代表、絵本作家)  
萩原ナバ裕作さん(岐阜県立森林文化アカデミー准教授)  
小菅江美さん(森のようちえん てくてく 園長)  
時間：14:30-15:30